

令和2年度（2020年度）熊本市献血推進協議会議事録（要旨）

1 開催日時

令和2年（2020年）10月6日（火） 14時～15時30分

2 開催場所

ウェルパルクまもと 4階会議室

3 出席委員（敬称略）

野津原 昭、川田 晃仁、井芹 貴子、岡本 恭典、山川 李好子、大賀 健司、宮部 勇志
以上7名

4 議題

- (1) 令和元年度（2019年度）熊本市献血推進事業報告
- (2) 令和2年度（2020年度）熊本市献血推進事業計画
- (3) 各団体の献血推進活動等について
- (4) 熊本県内の献血状況について
- (5) その他

5 議事録（要旨）

（議事に入る前に）

互選により、会長には野津原 昭委員が、副会長には山川 李好子委員が選任された。任期は今年度から令和4年（2022年）3月31日までである。

- (1) 令和元年度（2019年度）熊本市献血推進事業報告
事務局より説明した。会議資料P1～2詳読。
- (2) 令和2年度（2020年度）熊本市献血推進事業計画
事務局より説明した。会議資料P3～5詳読。

【質疑応答】

野津原会長）今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、熊本市の献血者数は減少していますか？

事務局）今年度の熊本市の移動採血車による400mLの献血者数の目標は12,005人ですが、4月～8月末の5ヶ月間で4,521人であり目標の37.6%となっております。

野津原会長）熊本県全体ではどうでしょうか？

熊本赤十字血液センター）今年の2月下旬～5月末は、新型コロナによる緊急事態宣言や外

出自粛の影響で、移動採血車が34台キャンセルとなり、約1,800名の方にご協力をいただくことができませんでした。また7月の豪雨災害、9月の台風10号の被害の影響も続いており、現在も献血者の確保に大変苦慮しているところです。

熊本県の4～9月末の昨年度の献血者数は36,174人に対し、今年度の同時期では37,840人となっています。これは、「献血の減少」についての全国規模のマスコミ報道や地元新聞やテレビ、ラジオ等で広報を行ったことにより、一時的に回復したものです。

内訳としては、30代以上の献血者数は増加したものの、高校・大学・専門学校の休校により、10代、20代の献血者数は大きく減少しています。

野津原会長) 熊本市も若者が目を引き、興味をもってもらえるSNSを使った広報を検討してはどうでしょうか？

事務局) 現在、すぐできる方法は持っていませんが、検討して参ります。

野津原会長) ラジオ放送は、私たちの世代はよく聞きますが、若者は聞きますか？
テレビ、ニュース、SNSなど、もっと効果的な方法での広報を熊本市も行ってはどうですか？

宮部委員) 私はラジオを持っていませんし、全く聞きません。

山川副会長) 今の若者は、テレビもニュースも見ません。見るのはスマートフォンです。

事務局) 何かすぐにできるかはわかりませんが、今後対応を検討して参ります。

(3) 各団体の献血推進活動等について

① 野津原会長

- ・血液の必要性を訴えて、医師会館を献血会場として場所を提供した。
- ・献血に対する広報活動を行った。
- ・医療機関に対し、献血会場としての場所の提供をお願いした。
- ・令和2年度は、健康フェスティバルでサクラマチクマモトや熊本城ホールに献血車が来てくれる予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止になった。令和元年度は血液が不足する2月に市医師会、ヘルスケアセンター等に周知して献血を実施した。

② 川田委員

- ・企業側に対して献血の広報を行い、周知しているが、新型コロナウイルスの感染拡大により企業献血が減少している。
- ・GoToキャンペーン等により、少しお客が戻ってきているが、倒産や廃業した企業がある。企業はかなり疲弊している。スポンサーは減っている。
- ・商工会議所には1日数十人～100人くらい来所相談があり、献血車に来てもらい、

対応できたらと思う。

・感染症対策と企業の経済活動の両立を願っている。感染症対策に対して協力したい。

③ 井芹委員

・主に熊本県内の献腎・献血・献眼活動、糖尿病、環境保全、薬物乱用防止活動、小児がん患者への救済活動を行っており、中でも献血は、ライオンズの中で、11のゾーンに分かれている。

・献血では、各クラブ、各ゾーン、高校への献血のお願いや呼びかけを行っている。

・活動をされている方は、高齢の方が多くて、本人は献血できないが、会社経営者が多いので、従業員に献血の呼びかけをしてもらっている。

・年1回、久留米でレオクラブを開催し、久留米の血液センターを見学してもらい、若い方に献血に興味を持っていただけるよう活動を行っている。

④ 岡本委員

・熊本市地域献血推進連合協議会活動資料P1～9を説明。

・大西市長を今年2月に表敬訪問した際、若い方に早い段階で献血に興味を持ってもらうよう、献血を熊本市健康ポイント事業に加えて、献血者に40ポイントを付与していただけるようになった。

・本日参加された委員の皆様にも配布しておりますが、熊本市地域献血推進連合協議会でオリジナルのクリアファイルを4種類作成しました。10代、20代の若い人向けのかわいい絵になっている。また、クリアファイルの裏のメッセージがポイントになっている。細密画は、青い鳥の感謝の心を表していて、ハートが心臓、一番下が膀胱であり、人の臓器を表現している。

校区献血の新たな取り組みとして、熊本地震や新型コロナウイルス感染防止等で校区献血バスの運用が困難になった校区の方々でも、下通り献血ルームCOCOSAや日赤プラザ献血ルームで校区献血の申出をされた場合には、校区献血として集計する。この取組を12月まで行う予定である。

⑤ 山川副会長

・毎週月曜日に下通りCOCOSAの献血ルームでお味噌汁とおにぎりを献血者に提供している。婦人会ならでの活動である。

・県外から献血に来られた方は、「熊本の味噌汁は味噌が甘めですごく美味しかった。このような取り組みは、全国でも珍しいです。」と話されていた。

・地域婦人会は、75年続いており、地域に根ざした活動で、終戦後すぐに始まった。諸先輩方から引き継いでいる。献血に取組む歴史もとても長い。

・日赤奉仕団が昨年行った日赤フェスタでは、子ども向けに教育パネルを作成し、幼稚園児や小学生が訪問し、熊本では地震バージョンで防災教育も行った。

・子どもの教育は、3歳～小1までが大事で、新型コロナで縮小していたが、そろそろ幼稚園回りを再開し、年輩の方達が血液で困らないように献血について教育していく必要がある。

⑥ 大賀委員

- ・熊本市社会福祉協議会として地域の福祉事業を行っており、献血推進のお手伝いをしています。広報活動を主に5つの区役所にて、チラシ配布、ポスター掲示を行っている。

⑦ 宮部委員

- ・熊本県学生献血推進協議会活動報告に添って説明。

【質疑応答】

宮部委員) 若年層の献血者の増加を図るため、クリアファイルの作成などを行っているとのことでしたので、今後、学生にも意見を交換する場を提供していただけるとありがたい。

山川副会長) 最近の若者はラジオも聞かないし、テレビも見ないとのことですが、SNSなどのお金をあまりかけなくてもできる広報の仕方を考えていければと思う。

宮部委員) 現段階では、インスタグラムというSNSを用いて広報ができればと考えている。

事務局) 学生の研修等は日赤が支援しているものか。また、模擬献血とは？

熊本赤十字血液センター) 学生の研修等は日赤と熊本県の薬務衛生課が支援している。模擬献血とは、赤十字イベントの際、日赤プラザ献血ルームや移動採血車で、模擬体験をしてもらうものである。

山川副会長) 学生の方達が勢力的に活動されているので、私達も炊き出し等できる形で協力しコラボレーションができればいいと思う。

(4) 熊本県内の献血状況について

熊本県赤十字血液センター献血推進課長 早川 和男氏から血液事業の現状についてプレゼン資料に添って説明。

岡本委員) 献血の基準に体重があると思うが、50 kgだと女性の献血が厳しいと思われるがどうかにならないものか。

熊本県赤十字血液センター) 安全担保のための国が設けている基準であるため体重の規制を緩和することはできない。しかし、献血ルームにおいては200ml献血をお願いしており、体重の基準は40 kgになるのでそちらを利用していただきたい。

野津原会長) 女性の体重は50kg ぎりぎりの方がいると思うが、どのように判断しているのか。

熊本県赤十字血液センター) 曖昧なときには実際に測定している。
野津原会長) 献血者数は減少しているようだが供給状況はどのような傾向か。

熊本県赤十字血液センター) 供給状況に関してはそこまで変化しているようには感じていない。
現段階で春先よりは増加しているが前年ほどではないと思われる。新型コロナの影響で予定手術が減少したことや交通事故外傷が減少したことが原因かと思われる。現時点では、手術も通常どおり増えてきている。